

短報

## 岡山市犬島で確認された非繁殖期におけるジョウビタキの 集団囀りと縄張り争い

村上良真<sup>1</sup>

Flocking, chirping, and territoriality of the Daurian Redstart (*Phoenicurus aureoreus* Pallas) recorded in the non-breeding autumn on the Inujima Island, Okayama, southwestern Japan

Ryoma MURAKAMI<sup>1</sup>

**Abstract:** The Daurian Redstart (*Phoenicurus aureoreus* Pallas) is a winter bird in Japan. Both male and female are known to be solitary and show territoriality while in the wintering season. In October 2014 (non-breeding season), however, both male and female were observed to flock and show chirping and territorial behavior on the Inujima Island in Okayama City, southwestern Japan. Such behavior patterns in the autumn, here reported, possibly occur only on small islands, and have not been reported from anywhere else in Japan. Their behavior patterns observed on Inujima indicate that this bird species is not always solitary-living.

### I. はじめに

ジョウビタキ *Phoenicurus aureoreus* Pallasは、「スズメ目ヒタキ科」に属し、日本には冬鳥として全国に渡来する。主な繁殖地はバイカル湖からアムール流域、モンゴル、満州、ウスリー地方、中国北部、朝鮮など(林・山路 2014)とされ、一般には標高900m以下の平地や山地の灌木林、農耕地、草原、河原、雑木林、アカマツ林、村落付近などに生息する(清妻 1979)。本種は縄張り性が強く、非繁殖期には、雌雄1羽ずつが単独で縄張りをもって分散する。中国本溪地区では、4月初め以後単独活動をする数が減少し、つがいで行動するとされている(張 1995)。

ところが、2014年10月岡山県犬島では、非繁殖期である秋季でも雌雄ともに複数個体の集団で生息しており、囀り行動や縄張り争いが盛んであった。このような光景は本土では報告がなく、島だけで見ら

れる姿の可能性があるため、以下に報告する。

### II. 調査地

#### 1. 地形

犬島は岡山市東部、宝伝の沖約3 kmある岡山市唯一の有人島である(北緯34度33分45秒 東経134度05分59秒)。島の面積は0.54km<sup>2</sup>であり、周囲3.6km、標高36m、人口は54人とされている(「岡山県ホームページ」<http://www.pref.okayama.jp/kikaku/chishin/ritou/08inujima/index.html>, 2014年10月21日引用)。

#### 2. 植生

ほとんどがコナラ *Quercus serrata* 群落であったが、ススキ *Miscanthus sinensis* や針葉樹(アカマツ *Pinus densiflora* など)も自生していた。

1. 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学理学部動物学科 Department of Zoology, Faculty of Science, Okayama University of Science, 1-1, Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.

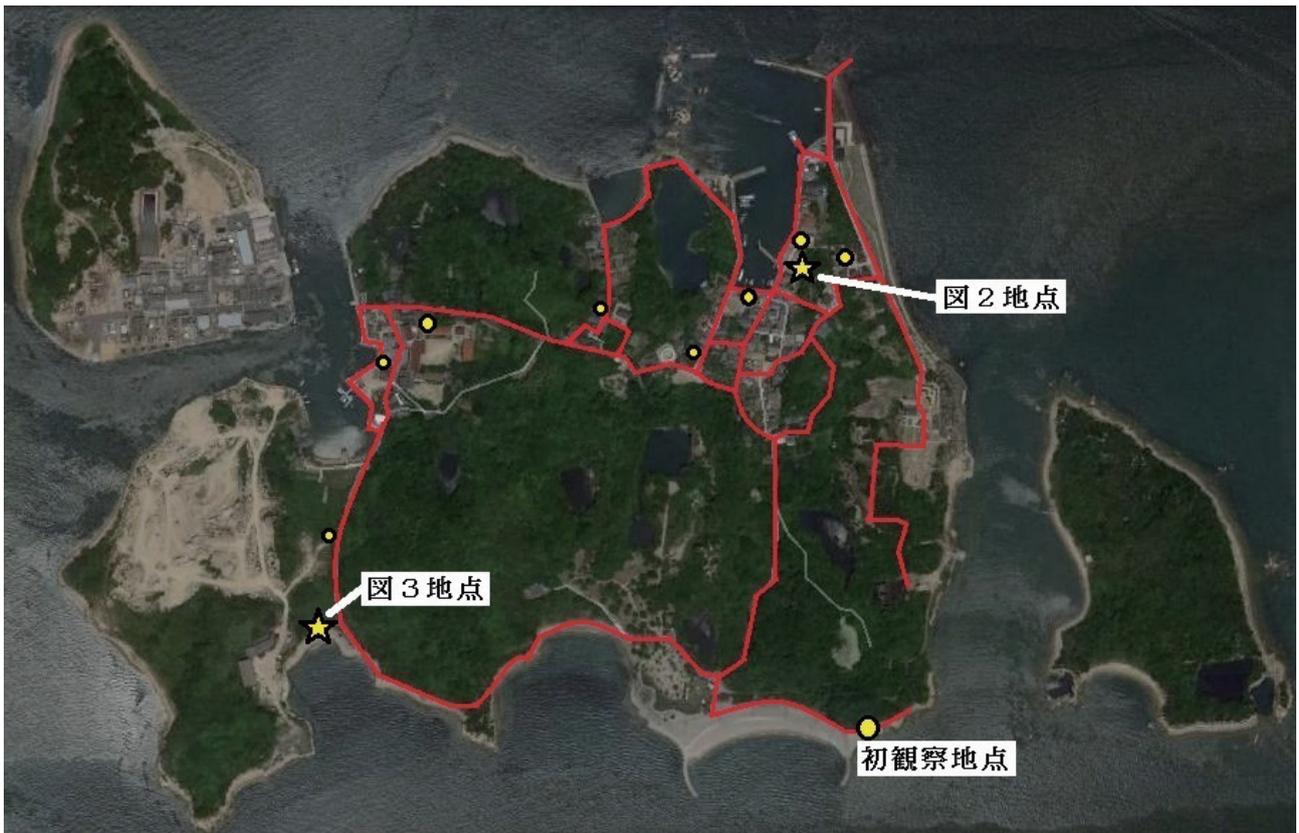


図1. 犬島の観察ルートと観察地点. (地図データ: 2014 Google Earth)

### III. 調査方法

調査は2014年10月20日のみで、午前8時～14時の間に行った。調査は徒歩で行い、道路幅を含めた全幅約50mの範囲に出現したジョウビタキを記録した。観察ルートは図1の赤色で示す。観察には双眼鏡(8倍)の他、写真撮影も併用した。

### IV. 結果

ジョウビタキを観察できた地点は全部で11ヵ所あった(図1)。著者がジョウビタキを最初に発見したのは、南側の海水浴場付近に自生している地表から3～4mほどの広葉樹の幹に雄1個体、雌2個体であった。その後も調査を続けた結果、ジョウビタキの確認回数は雄8回、雌9回で、少なくとも雄3個体、雌4個体は生息していた。

10時頃、犬島の定期船乗り場から南に約60mのところにある小さな広場で雄同士の争いが行われていた(図2)。広場は台形で面積は約160m<sup>2</sup>、周りには高さ1m程の柵があり、植物は少し生えているもの



図2. 広場で争い合う雄2個体.

の全体的に砂地である。北と南には民家があり、西に港、東に高さ約10mの岩場があり広葉樹が自生している。この広場でジョウビタキは互いに威嚇しあい、争いは10分程度行われた。ときおり、著者にぶつかりそうなくらいの距離で追いかけ合いをするこ



図3. 囀り合っていた雌2個体.

ともあった。近くの電線には雌の姿も見受けられた。その他、島内では雌が雄を追いかける姿や雄が囀る姿、雌同士の囀り合いも確認した(図3)。

#### V. 考察

非繁殖期でのジョウビタキは単独性とされているが、犬島では集団で生息することが確認できた。本州本島側の岡山市街にもジョウビタキは生息しているが、これほど集団で生息している場所の報告はない。そのため、島に生息しているジョウビタキは集団社会性を示すのかもしれない。しかし、断定するには調査期間が短すぎるため、今後さらなる調査が必要である。

#### VI. 謝辞

今回の報告をまとめるにあたり、岡山理科大学教授高崎浩幸先生に助言をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

#### VII. 引用文献

- 清妻幸保(1979)。「補足改訂版 日本鳥類大図鑑」。245-246pp. 講談社。
- 張 疎璽(1995)。福井和二[訳]。本溪地区におけるジョウビタキの繁殖生態および誘致。動物学雑誌 30(5): 1-6。
- 林 正敏・山路公紀(2014)。八ヶ岳周辺におけるジョウビタキの繁殖と定着化。日本鳥学会誌 63(2): 311-316。

(2014年12月15日受理)

